

平成25年4月18日

プレスリリース

独立行政法人森林総合研究所
林木育種センター東北育種場

高田松原の松苗木が地元「高田松原を守る会」に里帰り

概要 平成23年5月に「高田松原を守る会」（事務局：陸前高田市）から東北育種場に対して、東日本大震災の前年秋に住田町にお住まいの方が集めた高田松原の松ぼっくりから採れた種からの苗木育成を依頼されました。

東北育種場の苗畑に23年5月31日に播種し、約600本が順調に生育し、昨年5月12日にそのうちの半分（300本）を「高田松原を守る会」の自らの畑で苗木を育てたいという強い要望に応じて引き継ぎました。

現在、東北育種場（滝沢村）と高田松原を守る会でそれぞれ育てている苗木も20～30cm程度に成長し、このたび、育種場で育てている残りの苗木300本も、「高田松原を守る会」に里帰りすることになりました。

「高田松原を守る会」への苗木の里帰り予定

平成25年4月28日（日）10時頃に東北育種場と高田松原を守る会は、高田松原を守る会の苗畑（陸前高田市小友町気仙大工左官伝承館近く）で合流し、畑に植え付ける。

当日は、ボランティアの学生40人程も12時頃畑を訪れることになっている。

1 経緯

平成23年3月11日の東日本大震災に伴う津波により、奇跡的に残った一本松を除いて、国指定の「名勝高田松原」がほとんど消失しました。

平成22年の10月頃に住田町にお住まいの方が装飾用リース製作のために高田松原から収集した松ぼっくりから種が採れたため、23年5月に、「高田松原を守る会」から、奇跡の一本松の後継樹育成に取り組んでいた東北育種場に苗木育成の要請がありました。

東北育種場では、要請に応え、国指定の「名勝高田松原」をかたち作った松の種を同年の5月31日に播種し、後継樹の育成を開始しました。

その後、種は6月下旬に発芽し、以降、東北育種場では間引き、施肥、病虫害防除、越冬仮植などの管理を行い、現在、苗高20～30cmに苗木が成長しています。



播種前の種子



発芽状況 (23年6月下旬)



高田松原を守る会の苗畑 (24.5.12)



高田松原を守る会の苗畑 (25.3.22)



高田松原実生苗
(東北育種場苗畑 25.4.11)

問い合わせ先

森林総合研究所林木育種センター東北育種場
(担当：田之畑、安部)

〒 020-0173

岩手県岩手郡滝沢村大崎 95

電話：019-688-4518 FAX：019-694-1715

(担当：田之畑、安部)